

研究主題

「K4 の視点を生かした授業づくりを核とした学力向上」

# 各教科の取組

(実践記録)



平成 27 年 10 月 30 日 (金)  
飯能市立飯能西中学校

# 〈国語〉

## 1. 教科としての K4 のとらえ方

- ・ 明確な課題      ・ ・ ・ 単元の目的（導入時；興味関心を持たせ、目的意識を明確にする）
- ・ 豊かな活動      ・ ・ ・ 音読・感想文、漢字・語句の意味の確認。話し合い活動。発表する。
- ・ 活動の確認      ・ ・ ・ 授業ノートでのまとめをする。
- ・ 授業の価値付け      ・ ・ ・ 生活との結びつき、ノート（授業・語句・漢字）の確認。自己評価、相互評価等

## 2. 取組の内容

### 【K4 の視点を生かした授業改善】

#### ・ 授業ノート

「授業ノート」を工夫して活用させている。例えば、「自分用」と「授業（板書）用」と使い分け、指導内容の確認、問題演習による学習内容の定着化、深化、補充を目指している。

#### ・ 感想文の工夫

観点毎に初読の感想を書かせている。その際、字数制限・段落数などの条件を明示し、原稿用紙の使い方、課題作文を書けるように、生徒に意識させるようにした。そして、評価をして生徒にわかるようにしている。

#### ・ 話し合いの工夫

4（～5）人グループの少人数での活動が有効であるので、国語の授業用にグループを作って、話し合い・発表を行い、一人一人の意見が反映されるように整備をしてきた。

### 【学力向上を補完する取組】

#### ・ 語句ノート（漢字ノート）

教科書に出てくる新出漢字・新出音訓の練習・習得。調べさせたい語句の意味や短文作りをするノート。定期テストにも出題し定着を図っている。また、授業の最初の漢字小テストを実施し、100問になったら100問テストを実施。長期休業中には漢字の書き取りを宿題として、基礎事項を定着させ、休み明けに確認テストを行い、基礎・基本の定着を図っている。

#### ・ 家庭学習の仕方

家庭学習の仕方が分からない1年生のために、家庭学習の仕方のプリントを作成し、配布している。また、ただ配布するだけでなく、ノートを定期的に集め、点検し、学習法の改善を授業で話すことで、自主的・計画的に学習ができるよう努めている。

## 3. 研究の成果

#### ・ 授業の充実

授業で課題を明確に示すことにより、目的意識をもって授業に取り組めるようになった。また、漢字小テストを実施しているので、授業に落ち着いて入り「国語教室」を作りやすい状況にある。授業ノートも点検しているため、工夫されたノート作りができるようになり、豊かな活動ができるようになってきた。

#### ・ ノート内容の”質的な”変容

語句ノート（漢字ノート）・授業ノートの優秀ノートの掲示を行うことにより、ノート作りの質的な変容が見られた。また、相互評価（ノートの優秀な人）をすることにより、お互いに意識してより豊かな活動ができるようになった。

#### ・ 基礎学力の定着

語句ノート（漢字ノート）の宿題、小テスト、長期休業中の宿題・確認テスト、定期テストへの出題など、反復練習をすることにより、基礎的・基本的な知識が身につけてきた。

## 4. 今後の課題

#### ・ 活動の継続とさらなる工夫

漢字テストの効果的なやり方、授業の工夫などで、より豊かな活動にする等

#### ・ 効果の検証

基礎学力の確実な定着を目指す→ゆくゆくは、基礎学力を元にした授業の展開の研究

# 〈数学〉

## 1. 教科としての K4 のとらえ方

- ・ 明確な課題 ・ ・ ・ 本時の学習活動や目標の明確化
- ・ 豊かな活動 ・ ・ ・ 既習事項の活用による課題解決（計算をする、グラフを描く、図形を描く、話し合う、発表する、説明する）
- ・ 活動の確認 ・ ・ ・ 演習問題・評価問題による確認
- ・ 授業の価値付け ・ ・ ・ 既習事項や生活との結びつき、自己評価

## 2. 取組の内容

### 【K4 の視点を生かした授業改善】

#### ・ 自己評価カード

全学年で毎時間「自己評価カード」を記入させている。これは1時間の授業を振り返らせるだけでなく、課題やまとめの意識させる役割を担っている。また、教師にとっては挙手回数や感想を確認することによって生徒の理解度を測るもの1つとなっている。

#### ・ 計算力UPトレーニング

毎時間の授業の始めに「計算力UPトレーニング」を行っている。これは志水廣・横田茂樹著の『中学校数学科・志水式音声計算トレーニング法』（明治図書、2006年）を使い、2人組で既習事項の計算を発声により行うもので、基礎・基本の計算力の向上や授業に積極的に参加させるためのアイスブレイクにもなっている。

### 【学力向上を補完する取組】

#### ・ 西中ドリル

数学科では、平成25年度に基礎事項を1問1答形式でまとめた「西中ドリル」を作成し、平成26年度に配布した。長期休業中に宿題として、基礎事項を定着させ、休み明けに確認テストを行うだけでなく、定期テストにも出題し、基礎・基本の定着を図っている。

#### ・ ノートのとり方

ノートを定期的集め、点検をして優秀ノートの例を掲示することによりノートのとり方の工夫を促す。



## 3. 研究の成果

#### ・ 授業の充実

授業で課題を明確に示すことにより、目的意識をもって授業に臨めるようになった。また、小グループによる話し合い活動やデジタル教科書などのICTを活用することにより学習意欲を高めることができた。

#### ・ 基礎学力の定着

計算力UPトレーニング、西中ドリルのテストへの出題、西中ドリルの確認テストや再テスト、補習をしたことにより基礎・基本的な計算力をつけることができてきた。

## 4. 今後の課題

- ・ 基礎学力のついていない生徒への手立て
- ・ 宿題プリントやヒントカードの工夫
- ・ 補習の時間の確保

# 〈社会〉

## 1. 教科としての K4 のとらえ方

- ・ **明確な課題** . . . 興味関心を持たせ、目的意識を明確にする。(本時のゴールを示す)
- ・ **豊かな活動** . . . 白地図による作業。地図やグラフの読み取り、活用。資料・史料の読み取り。話し合い・考察する。発表する。
- ・ **活動の確認** . . . 授業ノートでのまとめや課題について考えたことをまとめる。
- ・ **授業の価値付け** . . . 生活との結びつきや各時代や地域との関連について考える、調べてみる。実物(本物)を見たい。現地に行ってみたい、などの自己評価、知的好奇心。

## 2. 取組の内容

### 【K4 の視点を生かした授業改善】

#### ・ 資料等の効果的な提示の工夫 . . . デジタル教科書活用の工夫

課題の提示や学習活動に用いる資料(地図・グラフ・資料・史料など)をデジタル教科書を使用し提示している。資料や映像を集中して見ること、グラフや地図の変化や比較など視覚に訴えることで、生徒の資料活用の技能や社会的思考が深まると考えられる。



#### ・ 導入の工夫

本時の内容に関わるニュースを導入に紹介することで、本時の授業や社会的事象への関心を高めるものとする。

#### ・ 外部講師の導入

東京証券取引所・公正取引委員会・所沢税務署職員との連携による授業により、豊かな活動が展開されるように工夫した。



[公正取引委員会 独禁法の授業]

### 【学力向上を補完する取組】

#### ・ 都道府県名小テスト及び、都道府県庁所在地名小テストの実施

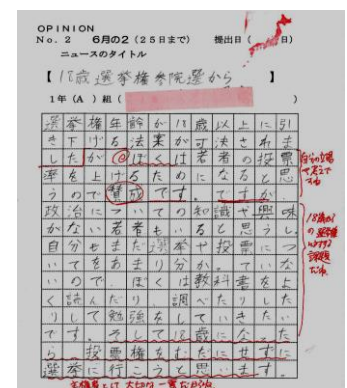
週一回、地方ごとの小テストを行う。定期テストにも出題し、基礎基本の定着を図っている。

#### ・ 西中ドリル

平成26年度に基礎事項を1問1答形式でまとめた「西中ドリル」を作成した。長期休業中の宿題として、日々の家庭学習として、基礎事項を定着させ、休み明けに確認テストを行うだけでなく、定期テストにも出題し、基礎・基本の定着を図っている。

#### ・ OPINION の取り組み

本年度より全学年で、社会事象(ニュース)に関心を持つように、時事問題に対する自分の意見を書く取り組みを行っている。自分の興味を持ったニュースに対する意見(月3回)と、指定されたニュース(月1回の課題)に対する意見を書き、提出する。添削をし返却することで、表現力、論述の技能を高めることをねらいとした。



#### ・ 知識の階段

階段のスペースを活用し、都道府県名を掲示している。

#### ・ ワーク

ワークを定期的集め、点検することにより、自主的・計画的な学習ができるように努めている。また、定期テストにもワークからも出題することで、基礎・基本の定着を図っている。

[12×15=180文字に自分の意見を書く]

### **3. 研究の成果**

#### **・授業の充実**

授業で課題を明確に示すことにより、目的意識を持って授業に臨めるようになった。資料を見て考え、発言する姿が増えてきた。

#### **・定期テストの記述問題の解答の質的な変容**

デジタル教科書を活用した効果的な資料の提示や o p i n i o n の取組により、定期テストの記述問題（社会的思考を求める問題や資料活用の技能を求める問題）の記述に空欄の生徒が減少した。

#### **・基礎学力の定着**

西中ドリル、小テスト、ワーク、定期テストへの出題など反復練習をすることにより、基礎的・基本的な知識が身についてきた。

### **4. 今後の課題**

#### **・活動の継続とさらなる工夫**

デジタル教科書の効果的活用のさらなる研究、より豊かな学習活動への展開など。

#### **・効果の検証**

基礎学力の確実な定着をめざす。将来的に基礎学力を元にした授業展開の研究。

# 〈理科〉

## 1. 教科としての K4 のとらえ方

- ・ 明確な課題 …… 観察・実験の目的（導入時；興味関心を持たせ、目的意識を明確にする）
- ・ 豊かな活動 …… 観察・実験をする、計算する。表・グラフを作成する。話し合う。考察する。発表する。
- ・ 活動の確認 …… 観察・実験のまとめをする。
- ・ 授業の価値付け …… 生活との結びつき、レポート、自己評価、相互評価等

## 2. 取組の内容

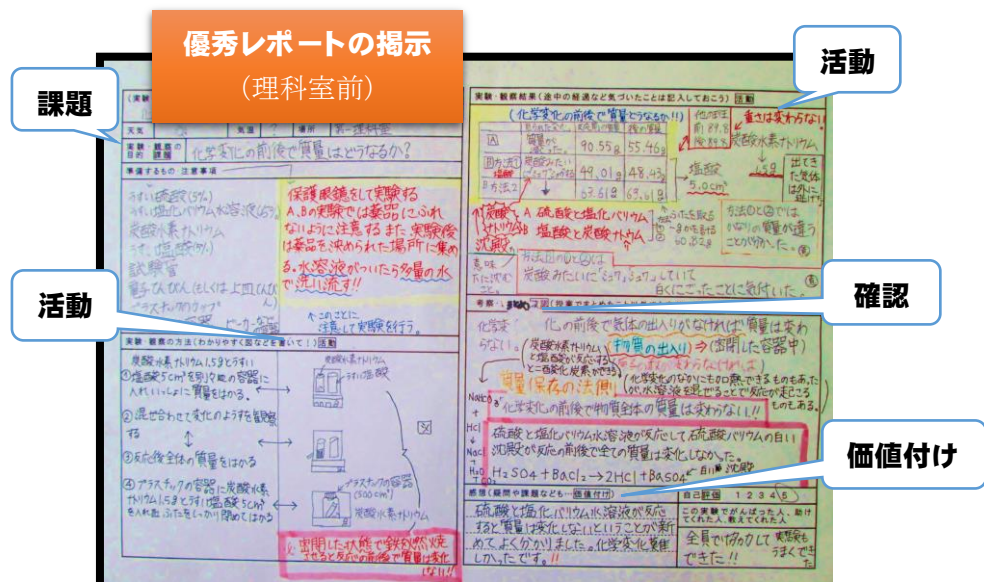
### 【K4 の視点を生かした授業改善】

#### ・ 理科ノート

全学年で「理科ノート」を共通使用している。いわば、共通のワークシートになっており、教師間での指導内容の確認、問題演習による学習内容の定着、深化、補充だけでなく、生徒にとっても大変使いやすいものとなっている。

#### ・ レポートの工夫

観察・実験の際のレポートでは、用紙に「課題」→「活動」→「確認」→「価値付け」を明示し、授業時の黒板（説明用）とレポートをリンクさせ、生徒に意識させるようにしている。また、優秀レポートを理科室入り口付近に掲示し、レポートの質的改善（個人的な変容）が図れるよう工夫してきた。



#### ・ 観察・実験時の工夫

4（～5）人グループの少人数での活動が有効であるが、さらに2～3名での観察・実験の個別化を図れるもの、例えば顕微鏡等については1人で観察・実験ができるよう整備をしてきた。また、パフォーマンステスト（顕微鏡、ガスパーナー、電気回路）を行ったり、平成27年度は、1年生のクラスに対し、TTで学習時に支援を行うなどしている。



火山灰の洗い出し

## 【学力向上を補完する取組】

### ・西中ドリル

理科部では、各学年で身につけておきたい基礎事項を1問1答形式でまとめた「西中ドリル」を作成した。長期休業中に宿題として、その学期に学習した基礎事項を定着させ、休み明けに確認テストを行ったり、定期テストに出題し、基礎・基本の定着を図っている。また、3年生は西中ドリルを使って1, 2年生の復習を繰り返し学習することに取り組んでいる。

### ・家庭学習の仕方

家庭学習の仕方が分からない1年生のために、家庭学習の仕方のプリントを作成し、配布している。また、ただ配布するだけでなく、ワークを定期的に集め、点検をすることにより、学習法の改善を授業で話すことで、自主的・計画的に学習ができるよう努めている。

## 3. 研究の成果

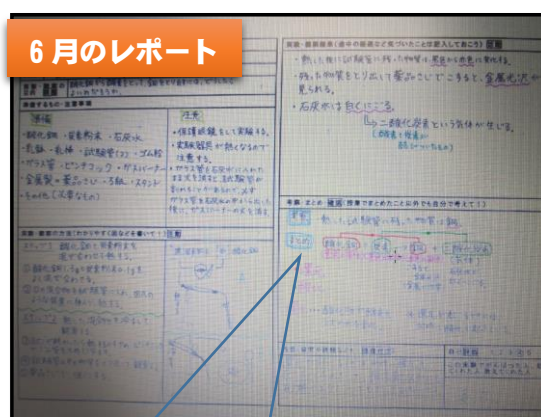
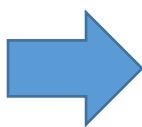
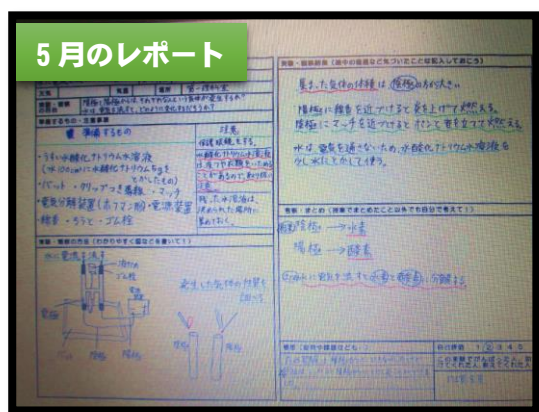
### ・授業の充実

授業で課題を明確に示すことにより、目的意識をもって観察・実験に望めるようになった。また、レポートで観察・実験の方法をあらかじめ記入させておくことで、手順を理解することにより、豊かな活動ができるようになってきた。

### ・レポート内容の”質的な”変容

優秀レポートの掲示を行うことにより、レポートの質的な変容が見られた。また、相互評価（観察・実験で頑張った人）をすることにより、お互いに意識してより豊かな活動ができるようになった。

## 【同じ生徒のレポート】



まとめが書けるようになってきた。

### ・基礎学力の定着

西中ドリルの宿題、小テスト、定期テストへの出題など、反復練習をすることにより、基礎的・基本的な知識が身につけてきた。

## 4. 今後の課題

### ・活動の継続とさらなる工夫

平成26年度に耐震工事が行われ、理科室が、1Fと2Fに分かれたので、今後は観察・実験の個別化が継続できるよう、観察・実験道具の整備に努め、より豊かな活動にするようしていきたい。

### ・効果の検証

基礎学力の確実な定着を目指し、ゆくゆくは、基礎学力を元にした授業の展開が行えるように研究を進めていきたい。

# 〈英語〉

## 1. 教科としての K4 のとらえ方

- ・ 明確な課題
- ・ 豊かな活動
- ・ 活動の確認
- ・ 授業の価値付け
- ・ ・ ・ 言語活動の明示（導入時；興味関心を持たせ、目的意識を明確にする）
- ・ ・ ・ 復習をもとにしたスパイラル学習、弾丸インプット、すらすら英会話等豊富な口頭練習、変化のある繰り返し、パターン練習
- ・ ・ ・ 活動の振り返り
- ・ ・ ・ 自分の言葉で要点をまとめる、自己評価、相互評価等

## 2. 取組の内容

### 【K4 の視点を生かした授業改善】

#### ・ 英語による授業展開

授業の挨拶をはじめ、指示や説明を英語で行うようにしている。生徒の英語によるインプットを増やし、学習環境づくりと英語を使おうとする雰囲気を作るよう心がけている。

#### ・ リズムとテンポを重視した授業展開の工夫

生徒の活動を円滑に行うために、テンポのよい授業展開を継続することを意識して行っている。活動間や、活動後の無の時間を作らないように注意し、生徒の活動意欲が停滞することがないように工夫している。そのためには、指示をより明確にする、活動後の確認作業を行う、活動後にもう一度集中が切れないように全体をまとめるなど、動と静の切り替えをしっかりとできるような授業規律を重視している。また、デジタル教材活用により、授業展開をよりスムーズにするようにしている。



[デジタル教材を活用した授業]

#### ・ 授業活動シートの記録

授業活動シートを用いて、個人の単語テストの結果や、ノート提出の記録、音読の回数など自分の学習状況を把握できる個人シートを配布している。

### 【学力向上を補完する取組】

#### ・ 西中ドリル

英語部では、平成 26 年度に 1 年から 3 年の重要単語をまとめた「西中ドリル」を作成した。各学年共に授業開始時に小テスト形式で取り組み、定期テストへ出題する。また長期休業中に宿題として出し、休み明けに確認テストを行うことにしている。

#### ・ 家庭学習の仕方

家庭学習の仕方が分からない 1 年生のために、家庭学習の仕方のプリントを作成し、配布している。また、授業内でとり扱った新出単語はその日のうちに家庭学習として、複数回書きとりの課題をだしている。

## 3. 研究の成果

#### ・ 授業の充実

英語による明確な指示と、ある程度の授業の展開をパターン化しているため、生徒はスムーズに動くようになっている。また、授業活動カードの作成により小テストの結果や個々の課題の取組状況が明確化され、生徒の授業に対するモチベーションの維持に効果がでてきている。

#### ・ 基礎学力の定着

西中ドリルの宿題、小テスト、定期テストへの出題など、反復練習をすることにより、基礎的・基本的な知識が身につけてきた。

## 4. 今後の課題

授業内に取り組みせたい活動が多く、それぞれの時間配分等のバランスが難しい。読み書きの反復練習が不十分であったり、宿題に回してしまうことも多い。また、インプット活動を多く行えていることから、表現活動への移行がさらにスムーズに行えるとよい。